

日 薬 定 例 記 者 会 見 要 旨

日 時：令和6年10月15日（火）16：30～17：00

場 所：日本薬剤師会 第一会議室

出 席 者：岩月会長、原口副会長

内容・提出資料：

1. 薬局における調剤事故の発生について（注意喚起）

（令和6年10月8日 日薬情発第111号）

岩月会長より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

近年、薬剤師業務はいわゆる対人業務の推進を求められているが、より適切で安全な薬物療法の提供が基本であることは何ら変わらない。さらに、ハイリスクの薬剤については、よりレベルの高い、厳格で安全な提供体制が求められている。

日本医療機能評価機構が実施している「薬局ヒヤリ・ハット事例収集分析事業」については、薬局から多くのヒヤリ・ハット事例が報告されている。自身の薬局では経験したくないような事例を知ることで、同様の事例が発生することがないように、あらかじめ防止対策を講じることや、他の薬局ではどのような改善策を立てているか参考にすることを目的としている。また、疑義照会や処方医への情報提供に関する事例として、医療安全に資する取り組みに関する事例が報告されており、それらの情報の共有によって、より適切で安全な薬物療法の提供に役立つものになっている。

今回はそれら事例の中から、一包化について報告されている事項を抜粋し、今一度、業務手順書の見直しを行うこと、事故防止のための仕組みについて薬局内で話し合いを行うことで、改めて対策の徹底をいただくよう、都道府県薬剤師会を通じて会員に周知したところである。

2. 第30回アジア薬剤師会連合（FAPA）学術大会（ソウル）開催のご案内

（令和6年10月8日 日薬業発第253号）

原口副会長より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

本年のFAPA学術大会については、10月29日（火）から11月2日（土）にかけて、韓国のソウルにおいて開催される。開催概要について、本会ホームページ、日薬誌にて案内するとともに、都道府県薬剤師会を通じて会員に周知したところである。

3. 薬剤師PRリーフレット（小学生向け）の配布について（お知らせ）

（令和6年10月9日 日薬総発第19号）

原口副会長より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

少子化の時代を迎え、子どもの能力開発に高い関心を持つ保護者は増えており、「仕事とは何か」「どのような仕事が自分には向いているのか」というような、職業観や就労意識に関する本質的なコミュニケーションを各家庭で図る機会が増えつつある。そういった状況に鑑み、令和6年度「薬と健康の週間」をはじめ、学校薬剤師による薬物乱用防止教室や薬剤師体験イベントなど、一般・教育機関等向けの資材として、本会会員が学校・教育現場や地域で活用できるよう、薬剤師業務の紹介資料を作成した。都道府県薬剤師会を通じて提供したところである。今後、中学生、高校生向け資材の制作も予定している。

主な質疑応答は以下のとおり。

〈FAPA について〉

記者：現地でのスケジュール等、決まっていればお教えいただきたい。

岩月会長：本会からは、私、岩月と国際担当の豊見常務理事が参加する。前体制の国際担当でいらした安部前副会長も参加される予定である。日薬会長に就任後、初めて FAPA 役員の皆様にご挨拶することを一つの目的としている。会長ミーティングへの出席や個別の面談なども予定している。FAPA からは、日本から多くの参加登録について要請があるが、平日開催のため、出来る限りお応えできるよう本会としても案内に努めたい。

〈薬剤師 PR リーフレットについて〉

記者：制作した狙いを詳しくお聞きしたい。また制作するリーフレットの種類は何種類か。

原口副会長：今回の小学生向けのほか、中学生向け、高校生向けの全部で3種類を制作する予定。前期の「組織・会員委員会」での検討事項を引き継ぎ、「薬と健康の週間」に合わせて制作した。学校などの教育現場や地域での活用を通じて、薬剤師業務や薬剤師会の活動について周知を図る目的である。薬剤師の職業認知は進む一方で、薬剤師会の認知は進んでいない。将来、薬剤師になる方に本会の存在を知っていただき、引いては組織強化につなげたい。

次回の定例記者会見は、令和6年11月6日（水）11：00～を予定。